

ある牧師さんから、

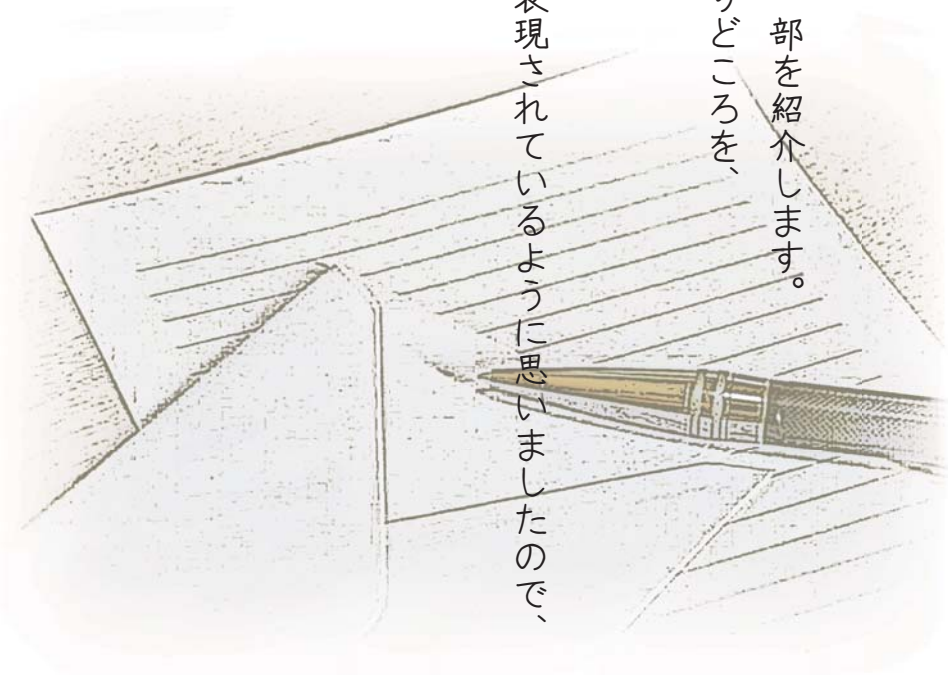
からしだねワークス利用者Aさんへのお手紙の一部を紹介します。

ミッションからしだねは、人間の存在価値のよりどころを、

聖書の教えの中においています。

このお手紙の中には、

ミッションからしだねが大切にしていることが表現されているように思いましたので、許可を得て掲載させていただきます。



今日はお便りくださり有難うございます。  
多くの思いが胸中に去来しているのですね。モヤが少しでも晴れて、光が差し込みますよ  
うに祈ります。

人とかかわりで、幾つかの思いが沸き上がって来るのですね。「ひがみ」もその一つな  
のですね。ところで、「ひがむ」ということばを私は自分の言葉として、殆んど使いません。  
分かってはいるつもり「ひがむ」ということは、どういうことなのだろう、と辞書を見ま  
した。「物事をすなおに受け取らず、自分に不利であるとゆがめて考える」と、『広辞苑』  
にありました。勿論、自分が意識して、ゆがめて考えようと願うのではなく、気づけば、  
ゆがめて考えていた、見ていたということでしょう。つまり、既にご自分でゆがみを自覚  
されているということなのでしょう。その背後には、自分を積極的に評価できず、むしろ  
否定的に自分自身を見ている、評価しているということがあるのではないのでしょうか。  
もしそうであれば、その影響は人間関係だけにとどまらず、生活全般に及ぶように思いま  
す。そのようなことは、実は大なり小なり、皆が抱えていることのように思います。  
私が、保育園や幼稚園の園長を務めて、学んだ一番大きな点は、この「大人も子どもも同  
じや」ということでした。人は誰も、大人も子どもも一人では生きていけないのです。つ  
まり、愛とか思い遣り、優しさ、敬意に触れなければ、生き生きと、あるいは喜びとか希  
望をもって生活することはできないのです。

ところが人は、年を重ね、知識が増えたり、体力、経済力がついたりすると、その事を  
忘れてしまうのです。体力、健康、経済力を与えられることで、自分は一人で生きていけ  
る、否、一人で生きていかなければならないのだ、と錯覚するのです。聖書が語る罪、と  
いうのはこのような錯覚、傲慢が根っこにあるように思います。人に迷惑な行為をするこ  
とも、勿論罪ですが、その根っこにある罪というのは、今申し上げた錯覚であり、傲慢です。  
しかし聖書は告げているのです、くわたくしはあなたを固くとらえ/地の果て、その隅々  
から呼び出して言った。あなたはわたしの僕/わたしはあなたを選び、決して見捨てない。  
恐れことはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたを助ける。勢  
いと力を与えてあなたを助け/わたしの救いの右の手であなたを支える。>(旧約聖書イザヤ書  
41:9-10)と。人は神の愛を受けるように創造されているのです。そのように私は信じて  
います。神はどんなことがあろうとも、我々を見放すことはないのです。<被造物も、わ

た私たちの主キリスト・イエスによって示された神の愛  
から、わたしたちを引き離すことはできないのです。>  
(新約聖書ローマの信徒への手紙8:39)と。私もパウロ  
の告白を真実だと思います。私はそのような神の愛を信  
じます。この愛が私たちを生かす、大人にも子どもにも  
安らぎと慰め、感謝、喜び、希望を与えてくれる、その  
ように考えます。我々が生きるというのは、そのような  
感動と喜びを与えられることだと思います。命というの  
はそのようなことを指すのであって、単に息をしている  
ところで「霊」というのは、元々風とか息を意味する

言葉ですが、我々が神様の命の息、愛の息を知らされ、  
神様は愛し、生きようと願われています。私はそのように信じます。我々は神の  
子です。子どもは一人で生きていけないのです。だから自分を守り導いて下さる父、  
そして母なる神に依り頼めばよいのです。神は何の条件も付けず、過去を問うことなく、  
人の力を問題にすることはありません。そのように思うとすれば、それは「ひがみ」です。  
イエスさまは<父(神)は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者に  
も雨(慈愛)を降らせて(注いで)くださるからである。>(マタイによる福音書5:45)と  
仰ってますよ。勿論聖書を読むことも条件ではありません。そもそも、16世紀に印刷  
機が出来るまで、聖書は一般の人が手にすることができない価格だったのですから。弱  
くても、病気もちでも、良いのです。神は人の頑張りがあるから、その人を愛して下さ  
るのではないのです。今のままで愛してくださっているのです。辛い時は強がらず、泣  
けばよいのです、助けて下さいと祈ればよいのです。人が教会に行く、行かないに拘わらず、  
神の愛の手は人に差し伸べられているのです。しんどい時は、安心して教会を欠席すれ  
ばよいのです。行く力を与えられた時、行くようにしましょう。また、礼拝に参加するの  
は招かれているのですから、それに応えればよいのです。どんなときも我々  
ゆっくり、祈りながら歩いていきましょう。祈ります。